

～グループでの話し合いを終えて感じたこと、振り返り～

日頃の保育の振り返り

- このチェックリストを行うことで自分の行動を見直せるいい機会となっている、毎年行うことで意識が持てると思う
- 当たり前だと思ってやっていることでも不適切保育になってしまっていたり、子どもにとって嫌な思いをしてしまっているのでは…ということもあり、チェックリストを行うことで保育を見直し書き出すことで振り返るよいきっかけとなった
- 以前より“人権”ということを具体的に意識するようになったので、チェックリストを行うことと、話し合いをすることは意識あることだと思った
- 子ども一人ひとりの人格を尊重する関わりが大切だということがわかった

話し合いや伝えあう大切さ

- 保育での悩みを話し合い、聞いてもらえる場や時間は良かった、伝え合う大切さを感じた
- 話し合うグループを年齢別にすることにより話しやすさもあった
- グループで話し合うことで「私もそう思う」と共感し合うことで、不安やストレスが減り、頑張ろうという気持ちになれ、話し合う大切さを感じた
- 話し合うことで普段見ることのない部分や各クラスの保育について知ることができいい機会となった
- 子どもへの接し方でスキンシップ、言葉使いの大切さを改めて感じた、どう改善したらよいかを話し合うこともできた

第3者目線

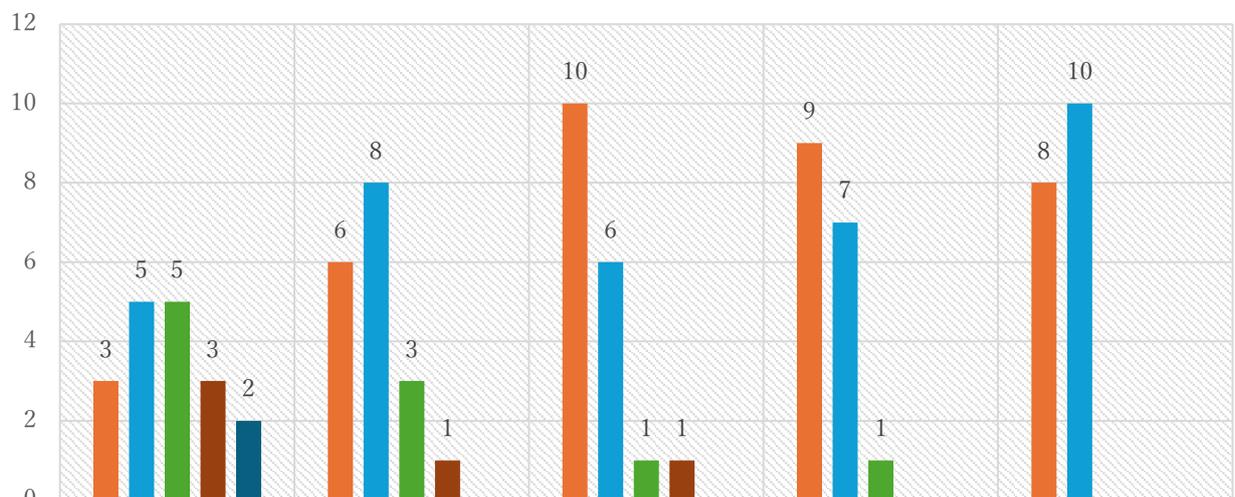
- 保育の振り返りは大切だが自分自身では判断できない部分もあるので、園内だけでなく、外部の先生に見てもらうことの大切さを感じたという意見もありなるほどと思った
- チェックリストに対しどの先生も真剣に向き合い自分の保育を振り返っていて、素晴らしいと思った

今後の保育にむけて

- “不適切保育”というワードが広がってきている今、必要以上に子どもへの声かけや対応に気をつけなければならないと改めて感じた
- 話し合いの中で言葉の捉え方や伝え方には三者三葉あり、普段何気なく使っている言葉に配慮していくことの大切さを感じた
- 日々の保育の中で自分の声掛けや対応に「これでいいのかな？」と振り返りながら保育していきたい
- 子どもの思いを受けとめることも大切なことだが、保育士主体の保育にならないよう心掛けることも大切だと感じた
- やらせる保育ではなく、できるためにどう関わっていくかを改めて考えて保育をしなければと思った
- 子どもを変えようとする前に自分自身や保育の環境を変えるようにできたらいいと思う
- 自分の心や環境にゆとりがないと言葉で言わなくても「はやくはやく…」と事務的な対応になってしまおうという現実にも納得しながらも気をつけなければと感じた
- 子ども一人ひとりに寄り添い、心に余裕を持ち関わっていききたいと思う

- 支援の必要な子に対して適切な言葉かけをしたり、一対一で子どもの話をしっかり聞いたりできるようにする
- 保育士自身がリフレッシュできるような環境づくり（休憩時間や有給休暇など）ができればと思う
- 場面に応じて子どもの気持ちに寄り添えない時がどうしてもでてしまう、人的環境（もう一人保育士がいてくれたら…）保育士にも子どもにもよい環境が作れるのではと思った
- 経験を通して身についた自分の保育（言葉かけ、接し方等）を見直し意識して変えていきたいと思った
- 保育の環境や保育の仕方が時代と共に変わってきているので、戸惑う部分もあるが、今の保育にシフトチェンジしていかなければと思う
- 声かけやひとつひとつの行動や対応、対処には配慮が必要であり、これからの関わり方の参考にしたいと思った
- 自分の保育だけでなく、若い先生にアドバイスする際も気をつけたり工夫したりしなければと思った
- 保護者の支援も保育の一つだが日頃の子どもとの保育でいっぱいになってしまうので、保護者対応についても勉強し経験を積み重ね力をつけていきたいと思った
- 保護者支援ではそれぞれの環境をしっかりと把握し、言葉選びや伝え方などにも気を配っていきたいと思った

人権擁護のためのチェックリスト



項目	100%	80%	60%	40%	20%
(1)子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわりをしていない	3	5	5	3	2
(2)物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけをしていない	6	8	3	1	
(3)罰を与える・乱暴なかかわりをしていない	10	6	1	1	
(4)一人ひとり子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわりをしていない	9	7	1		
(5)差別的なかかわりをしていない	8	10			